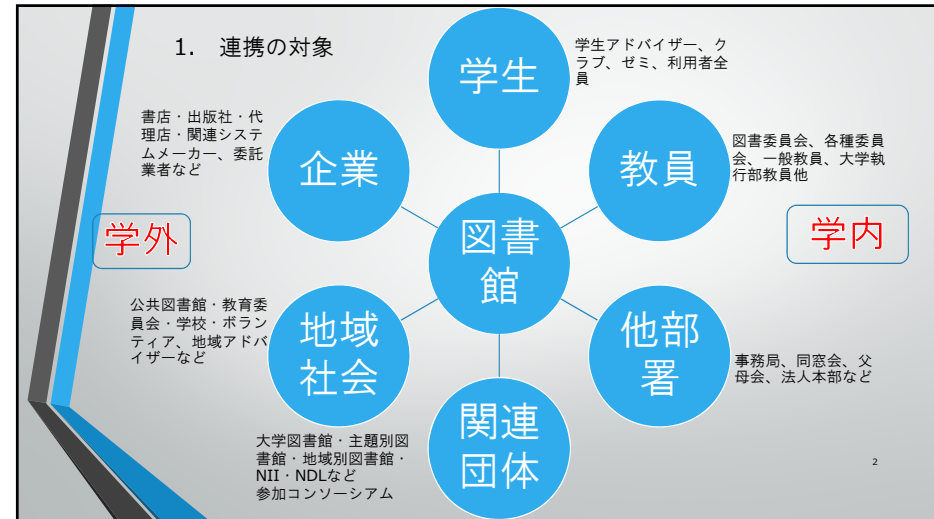


大学図書館の連携

若生政江（元城西大学水田記念図書館）

1



2. 大学図書館が連携することの意味

図書館の活性化→ サービスの向上→ パフォーマンス向上

- 所蔵資料の有効活用（電子資料も含む）
- 図書館活動の周知→ 見える化を図る
- 学内外への情報発信→ 広報の重要性
- 設置母体へのアピール→ 図書館は必要
- 大学評価への貢献
- 地域社会への貢献
- 生涯学習支援

→ 図書館運営に係る協働体制（学生、教員、地域、参加団体、企業も含む）

3

3. 連携とは？

- 大学教育の変化に伴い、図書館業務も多様化しているが、図書館職員は減少し、アウトソーシング化が進んでいる。その中でサービスを拡充し、ラーニング・コモンズも念頭に入れた学習支援や大学の求めに応えられるような図書館活動を行うために各種の連携・協力することで図書館の役割を担っていかなければならない。
- 連携の方法としては、学内のコンセンサスを得る、制度を作る、予算化する、文書の取り交わし（公共図書館の場合）、連携成果の公表、持続すること、などを考慮し**連携先と相互にWinWinの関係**を保つことが重要である。

4

4. 城西大学での事例 (<http://libopac.josai.ac.jp/>)

- 2008年度より図書館業務をアウトソーシング
- 職員2名（現在3名）、委託スタッフ16名
- 各学部選出の教員で構成された図書館運営委員会の議を得て大学の方針に則って企画運営し、その実務を業務委託。
- 月1回の会議（委託業者、各業務チーフスタッフ、図書館長、職員）業務報告と大学の方針を理解していただくための会議。
- 委託業者への依頼
スタッフ研修の充実、書店の経験知を踏まえた新たな企画・提案を外からフォローすること。

5

(1) 学生との連携

○ 図書館学生アドバイザー制度（2012年～）

学生が学生に相談できる制度で、アドバイザー自身も一緒に成長していくことを目指す。

- 教員の推薦により図書館長が委嘱。
- 授業の空き時間を利用してのシフト制で有償。
- 基本業務は、レポート作成や文献の探し方、PC利用などのアドバイス。
- 学園祭でのビブリオバトルやライブラリー・ラウンジの主催、POP作成やお薦め本などの紹介、その他独自の企画・運営。

6

① 図書館学生アドバイザー制度の効果

- 研究科・学部、学年を超えた学生の連携
→社会科学系学部と自然科学系学部の繋がり
- 徐々に学内での認知度が向上し応募者が増える
(最初は5名→現在20名) →メンバーの継承が円滑
(例：ゼミ、研究室の先輩から後輩へ、ビブリオバトル出場が契機でやってみたいなど)
- 学生目線での図書館への提案
- ゼミ情報など学生情報が入手しやすい

7

① 図書館学生アドバイザー制度の効果

- 学生アドバイザーからの図書館情報の発信（Twitterなど）
→学生・教員への広がり
- 他の学生団体とのコラボ
- 地域アドバイザーとのコラボ
- 2018年度図書館総合展ポスターセッション
「図書館学生アドバイザーの仕事全部見せます！」優秀賞受賞

8

② ビブリオバトルの開催効果（2011～）

- **学内での波及**
 出場学生の増加（各学部、大学院から参加、教室・ゼミ単位での参加、次年度リベンジ参加等）
- **教育的効果**
 - 紹介本を所属ゼミの授業で考察、教育実践報告として教員が紀要に掲載
 - 首都決戦地区予選会の対策についてゼミで議論、プレゼンテーション技法やパフォーマンスについて意見を出し合う
 - 地区決戦、京都決戦等で他大学の発表を聞く、他大学の学生と懇親するなど具体的な経験

② ビブリオバトルの開催効果（2011～）

- * 学園祭において、学生アドバイザー主催のビブリオバトル開催が理事長賞に輝く
- **地域公共図書館、SALAへの波及**
 - 学内予選会に公共図書館やSALA加盟館から見学、投票参加
 - 地域公共図書館共催の研修テーマとして取り上げ
 →公共図書館でビブリオバトル開催（2015～）
 →**出場学生の派遣依頼**
 - SALA研修会で事例報告 →ビブリオバトル開催館の増加

10

③ ライブラリー・ラウンジの開催（2014～）

- **学部・学年を超えて学生同士や教員と交流する場として幅広い分野のテーマで企画。**

企画から開催まで学生アドバイザーが担当

*開催内容は別紙参照

○ **学生選書**

- 年2回期間を決めて開催（予算化）
- 書店と連携し選書本を取り寄せ、館内で学生が選書
- 選書本は選書者に優先貸し出し

11

(2) 学内他部署との連携

① 就活支援連携

- **図書館・就職課共催就活DVD上映会（2012～）**
 - 図書館所蔵のDVDや資料を活用
 - 図書館内の視聴覚室を使用
 - 就職課職員からのアドバイス、質疑応答
- キャリアデザイン授業**での上映要望があり、教室に出向いて上映も

12

(2) 学内他部署との連携

- テレビ朝日「相棒」(2013. 11.13放映) (上映許可取得) 就職活動が題材
授業とコラボし上映後グループディスカッション
- 「図書館から始める就活」
 (学生アドバイザー企画・就職課共催)
 図書館資料を使った企業分析、業界分析の方法など
 就活経験者の学生アドバイザーが話す
- 就活に使えるデータベースの講習会
 (図書館・就職課共催、書店・版元協力)

13

② 機関リポジトリコンテンツ収集連携

- 機関リポジトリ運営委員会 (2010～)
 (各学部教員、事務局、情報科学研究センター、図書館)
- リポジトリ登録は図書館
- **コンテンツ収集は自動化**
→他部署を巻き込み、オープンデジタルの生まれる環境作り
- 紀要論文等にJaLC DOIを図書館で付与
- 業績データベースとの連携
 フォーマットにリポジトリURIを追加

14

② 機関リポジトリコンテンツ収集連携

博士論文

- 事務局経由、論文提出時に電子版と登録許諾書

紀要・年報等

- 発行と同時に電子版を図書館へ納品、投稿規定改正 (著作権は大学に帰属)

科研費報告書等

- 教務課経由、電子版と登録許諾書

15

② 機関リポジトリコンテンツ収集連携

学術雑誌論文

- 学務課経由、投稿料申請時に電子版 (著者版) と登録許諾書

公開講座・研究会等の資料

- 担当部署・担当教員経由、講演者等への事前依頼と登録許諾書を提出

大学広報資料等

- 発行元 (各センター、広報部、美術館等) より、電子版と登録許諾書

16

(3) 教員との連携

- シラバスルーム
- 教員おすすめ図書
- 研究室訪問
図書館への要望をヒヤリング、図書館活動のPR、
リポジトリコンテンツ提供依頼、図書館報への原稿依頼等
- 読書感想文コンテストの開催
埼玉県内中学生・高校生対象に実施。審査は、**図書館運営委員・選書委員、坂戸市教育長（外部審査員）**。
表彰式には、受賞生徒とその関係者、審査委員が出席。

17

○ 教員免許状更新講習会

2019年度「図書館を使った授業をデザインする」
図書館のラーニングコモンズスペースを使い
教職課程センター教員が講習、図書館がサポート。

○ 図書館サービス向上のためのアンケート

- ・ 全学対象に2007年より隔年で実施。
- ・ 用紙配布と回収を図書館選書委員から各学部の教員に依頼

(<http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm>)

18

○ 全学FD研修会での課題共有

2016年度第3回FDテーマ「研究倫理規程」
図書館ガイダンスについての教員向けアンケートの中から**学生のレポート作成時における資料典拠の記述やコピーなどについての調査結果**をFD研修の資料として提出。

- 現代政策学部の課題解決型授業
図書館を取り上げ講義の依頼

19

○ 理学部化学科と図書館共催の講演会

- 2017年「日本の化学のルーツと『舎密開宗（せいみかいそう）』」（**化学科コロキウム**との共催）
元理学部教授の依頼、内容は、日本初の体系的化学書『舎密開宗』（全21巻1837-47刊）の成り立ちや内容の解説。
図書館で公開している漢方古書デジタルアーカイブを利用したことなど「原点に触れる大切さ」を紹介してくれた。
- 2018年「地質時代に日本の地名が刻まれるか？千葉時代（チバニアン）国際模式地認定への展望」（理学部FD研修との共催）

20

(4) 地域利用者との連携

一般公開（15歳以上、誰でも無料閲覧）

① ライブラリーカード会員制度（2008～）

会費は年間千円、資料の貸出は5冊まで。

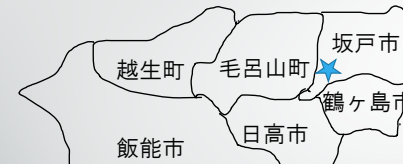
② 地域アドバイザー制度（2014年～）

地域の方に図書館活動を支援していただく。

- ライブラリーカード会員、健康市民大学受講生などの図書館利用者の中から図書館長が委嘱、無償。
- お薦め本の紹介、ライブラリー・ラウンジでのミニ講演会の講師など。

21

(5) 地域公共図書館との連携（2007～）



近隣6市町の図書館と相互協力の提携



(5) 地域公共図書館との連携（2007～）

近隣6市町の図書館と相互協力の提携

- 館長・主務者会議（2009～）
- 共催による公開講座（*別紙参照）
- 実務者研修会（**学生アドバイザーやボランティアも参加**）
- イベント参加（図書館祭りなど）
資料展示、ビブリオバトルへ**学生派遣**等
- その他
地域利用者への大学図書館利用教育（坂戸市）
図書館協議会委員（坂戸市、鶴ヶ島市）
図書館を使った調べる学習コンクール審査員（坂戸市）

23

(6) 出版社・書店・代理店との連携

- 出版社の講演会（2013～）（*別紙参照）
- 著作権講習会「知っておこう著作権」（2014～）
研究論文不正事件 → 図書館がすべきことは？
*2016年から大学の研究倫理教育の一環としての扱い
受講を教務部推薦。
大学院薬学研究科「論文作成法特論」の授業と連携。
2018年から**研究倫理講演会**（著作権も含めて）
「研究と論文と不正」

24

(6) 出版社・書店・代理店との連携

③ 英語論文執筆セミナー

「アクセプトされやすい英語論文とは？」（2016～）

＊大手外国出版社の協力

＊若手教員、大学院生、大学院に進む学生向け

④ 合同電子リソース利用講習会

教員向けに契約電子資料、論文執筆支援ツール等の紹介
コンソーシアム説明会方式

⑤ 各種データベース説明会

25

(7) 企業との連携

○ 図書館システムメーカーとの連携

- ・リプレース時月1回、その後は2か月に1度の定例会議
- ・図書館の要望をシステムのバージョンアップで反映
（例）電子ジャーナル管理、リンクリゾルバとの連携、
各種実態調査への対応、リバースチャージ対応等

・クラウドサービス採用

○ 機関リポジトリメーカーとの連携

- ・図書館の要望をバージョンアップで対応
- ・クラウドサービス採用
- ・本学の導入事例を公開

○ 蔵書点検システム

- ・カメレオンコードラベル（ICタグに代わるもの）採用

26

5. 埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA） の取り組み (<http://sala.gr.jp/>)

- ・加盟機関45館で相互利用（1988～）
- ・共通閲覧証の運用（1990～）
- ・研修会の開催
- ・物品の共同購入コンソーシアム（2011～）
物品の他、BOOKデータASPサービス等も含む9社と提携
SALA加盟のメリットを具体化→図書館以外からの発注も適用
→設置母体への貢献
SALAのサイトに協賛企業としてリンク

27

5. 埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA） の取り組み

・SALA Open Library Weeks（2013～）

Open館がテーマを設定し参加者募集、テーマに関心のある加盟館員が参加。その業務に携わる会員同士の情報交換により自館の状況見直しに役立てる。（＊別紙参照）

・「図書館と県民のつどい埼玉」（埼玉県図書館協会・埼玉県教育委員会他主催）SALAは協力団体として参加

「大学図書館のお宝見せます」所蔵資料展示や大学図書館の活動を紹介

埼玉県地域共同リポジトリSUCRA（2018.4運用終了）²⁸

28

6. 日本薬学図書館協議会（JPLA）の取り組み (<http://www.yakutokyo.jp/>)

- 薬学教育及び研究に寄与する目的で1955年に発足、**薬学系の大学図書館**（45館）と**薬学関連企業の図書館（室）**（42館）、電子ジャーナルコンソーシアムに参加可能な図書館
- 研究集会、中堅職員研修会開催
- 機関誌「薬学図書館」年4回発行
- **地域連携事業**（2010～**地域の薬剤師会と連携し薬剤師生涯教育セミナー開催**）
- 日本薬学会年会「日本薬学図書館協議会」シンポジウム

29

6. 日本薬学図書館協議会（JPLA）の取り組み (<http://www.yakutokyo.jp/>)

- **NPO法人日本医学図書館協会（JMLA）と連携**
JMLAとの共催による図書館総合展フォーラム
電子資料のコンソーシアム契約交渉と
コンソーシアム説明会を関西と関東で1日づつ開催
- 版元、代理店との連携→プロダクトレビュー（総会時などで展示や説明）

30

JMLA/JPLAコンソーシアム

- **医薬系大学図書館だけでなく企業図書館、病院図書館の要望も含めた交渉を行う**
- コンソーシアム提案対象（医学、薬学、保健・医療分野のEJ,EB,DB等）
- 版元、代理店との交渉内容
（提案モデル、価格、Usage、FTE、Science FTE、バックファイルの扱い、PPV、OA論文やAPCの扱い、国内誌の要望等）
- Science/AAASはJUSTICEと合同交渉
（課題）OA論文の出版費用APC（article processing charge）の支払いは？ 担当部署は？

→各大学で決めているか？連携が必要

31

7.まとめ

- 母体のミッションを理解し、その実現に向けて努力すること。
- 普段から学内での連携・協力関係を密にしておく。（学生、教員、他部署等）
- 図書館を取り巻く地域社会、書店や関連団体、企業等との協力関係も大切。
- 正式な手続きを取る（予算も含めて）→ 学内の周知。
- 情報発信・情報交換により何処と何をどう連携するか、相互理解を深めること。
- 各種の連携によりさらに連携が広がる。
→繋がりやの輪が幾重にも出来ることで活動の幅が広がり、パフォーマンスが向上する。
- サービスが充実することで利用者の満足度も向上する。
図書館員の数が減少し、アウトソーシングが進む中、各種の連携を図り協力関係を強固にすることで新しい業務に取り組むことも可能となる。

皆さんの大学はどうしていますか？

ご清聴ありがとうございました。